

「社会にかかわる」子どもを育てる授業づくり④

『小学校学習指導要領解説 社会編』では、県の様子について学習する際に、県内の特色ある地域の人々の生活を調べる対象として挙げています。そして、取り上げる「県内の特色ある地域」の一つとして、次の地域を示しています。

歴史ある建造物や街並み、祭りなどの地域の伝統や文化を受け継ぎ保護・活用しながら、地域の人々が互いに協力して、特色あるまちづくりや観光などの産業の発展に努めている地域（※下線は筆者）

このようなまちづくりに取り組んでいる地域が、会津地方にあります。会津若松市の中心にある「七日町通り」が、そのひとつです。



七日町通りの“プロジェクトX”

～小学校4年「県内の特色ある地域の人々の生活」～

歴史を感じさせる洋館の建物や蔵造りの店舗が連なるたたずまいが、レトロな景観を作っている会津若松市の「七日町通り」。現在、多くの人々が訪れ、飲食店や伝統工芸品を扱う店に立ち寄るなど、会津若松市の人気観光スポットとして賑わっています。

しかし、この七日町通りも20年ほど前には、約7割が空き店舗の“シャッター通り”だったそうです。市街地を取り巻くバイパスの開通等の道路事情の変化により、消費者は、中心市街地から郊外店へと移動してしまいました。それに伴い、七日町通りも次第に客足が減少し、空き店舗が目立つようになってきたそうです。

こうした状況の中、七日町通りの賑わい復活の中心となったのが、現在、七日町通りまちなみ協議会の会長を務める渋川恵男（しぶかわともお）氏でした。渋川氏の他、庄司裕氏、目黒章三郎氏の3名の有志でスタートした七日町再生活動は、商店街の取組へと変わり、やがては行政などを巻き込む取組へと発展します。



渋川氏らは、平成5年、川越市で開催された全国街並みゼミに参加した後、七日町通りの建物の現況を調査しました。そして、平成6年に七日町まちなみ協議会を発足し、七日町の今なお残る古く味わいのある建物を活かして、城下町らしい特色ある商店街再生を図ろうと考え、様々な取組を始めました。その結果、七日町通りは、今や年間20万人以上の観光客が訪れる観光スポットに生まれ変わったのです。こうしたまちなみづくりへの取組が評価され、平成22年度には、国土交通省から都市景観大賞「美しいまちなみ優秀賞」を受賞しました。

このように、地域資源の発掘と活用を図り、まちの賑わいを再生し、観光などの発展に努めている七日町通りの取組を教材化してみてはいかがでしょうか。

会津若松市内及び近隣町村の小学校であれば、子どもたちが、七日町通りを訪れて、見学や調査などの体験的な学習をすることが可能です。

『小学校学習指導要領解説 社会編』では、次のように述べています。

実際の指導に当たっては、(中略) 地域の伝統や文化を生かしたまちづくりに取り組んでいる地域や伝統的な工業などの地場産業の盛んな地域については、見学や調査などの体験的な活動を取り入れることも有効である。(※下線は筆者)

子どもたちが実際に七日町通りを訪れることで、次のような学習活動が可能になります。

見学
・
調査

- ★ 実際に街並みを観察したり、散策したりして特色をとらえる。
- ★ 観光客にインタビューして感想等を聞く。
- ★ 店の人やまちづくり協議会の方にインタビューして話を聞く。等

社会にかかわる

見学
・
調査後

- ★ 七日町通りをさらに発展させるためのアイデアを考える。
- ★ 『まちづくりアイデア集』を作成し、まちづくり協議会に提案する。等

このように、地域の問題と向き合い、創造的な取組で特色あるまちづくりに努めている人々に触れ、自分たちもよりよい地域づくりに参画する学習を展開することができます。

以前、NHKのテレビ番組『プロジェクトX～挑戦者たち～』が放映され、視聴者の感動を呼びました。様々な立場の人々が、直面した難問を、どのように克服し、成功に至ったかを紹介するドキュメントでした。

子どもたちのまわり（地域）にも、「プロジェクトX」が埋もれています。今回紹介した「七日町通り」の再生もその一つです。七日町通りまちなみ協議会の人々は、地域の問題を、知恵を出し合って解決策を考え、実行し、地域の再生に貢献したのです。

まさに、“地域のプロジェクトX”ですね！

